

鉱山の労働者諸君、金山の労働者諸君に訴ふ

金山の労働者諸君。吾々は金山の労働者の幸福のために、金山の労働者の利益のために、あの要求書を鉱業所に送りました。その要求が通ることには、それだけ金山の労働者の利益とあり、幸福とあるのです。然るに、鉱業所は何んとして、吾々の正しい要求を「ワグツブソウ」として、あらゆる手段をもって、吾々を「壓迫し、迫害して吾々を困難に陥れ、マシーナとしておろすのでありませぬ。連日に互つて吾等「客で引」を引かせ、色々の品物をやつたり、臨時に入場料金を徴したりして労働者を誘惑して暮らさせ、けじめも「ガイ」した「ゲ引」や「歩増」は、鉱業所の「苦」マシ」の「一時的」の「ゴマカシ」策でありませぬ。労働者がこんな「一時的」の「ゴマカシ」策に乗って誘惑に應じやいものさう、いまいには、骨の髄まで、シヤブリ取られ、いままいます。労働者のほんごうの利益を守り幸福を増進させるものは、労働組合をおいて外にはありませぬ。

二、金山の労働者諸君。諸君が若し人間として、血あふ涙あふり、耐えて自分の将来の利益幸福を希ふならば、是非、此の際、吾々の「労働組合」と同じ「行動」として、鉱業所を「吾々の要求」を「水」の「ゆ」に「流」して「下」す。

諸君。鉱業所の「ゴマカシ」誘惑であり、一日の利益のために、一瞬の幸福を失ふ。一時の安んを望んで、永く将来の利益を失ふ。諸君を幸福の樂園に導くのも、諸君を困難のドン底に追込むのも、存心の「断」に「た」りませぬ。諸君の「次断」一つにありませぬ。

諸君、慎重に熟考して決断せられよ。

別名 金山労働者議団  
 日本鉱業組合別名 金山支部

大正十四年十二月十九日